

花江都  
歌舞妓

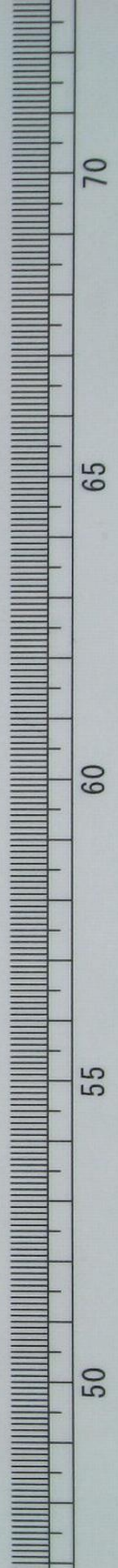
花江都  
歌舞妓

年代記

三編

四

津田文庫  
文庫 1  
1767  
12



早稲田  
圖書  
藏書

對面  
流  
之  
正傳

源氏物語。松平元仲を以て首實檢の而大評判有り。後ふその  
 牛一祐殿の坂東又九郎後ふ成し海討ふに因る。後祐経仲系再あつ伯耆のやとを  
 勅る大に。七月十五日より市村座あつ斯波教馬之助幸四郎。同父系女の助  
 こまき所波長友を友をあつ敵とてあ人禰る。教馬女房のひあつ殺す乙女妹まんや玉葉  
 お菊と出波辺武助あつの友羽左馬あつ之入正化浄より。標返廓文月富本豊をまする。同  
 中の巻かめやちま信幸四郎。つち梅川義之助。二の口行徳をあつあまをあつまきと評判はし  
 切狂言の義之助。山崎と合ま即。是又大に。後東平源五郎をあつまふお出れ。その長  
 瀬村を大羽神さぬくとあつはし。切落ふあつまふ今も好。中村座あつ妻あつ越あつ河あつ之あつ坂  
 弾正と中尾てる虎二役因十郎。角力を鬼小治法をあつ前と竹田なる信二や幸五郎。並あつい  
 合化浅妻おは四郎。幸五郎人ふ門之助。長岡小彦をあつつげ狂言とらきとせむり  
 が。尾上兼右守まきより。川辺居るが。大坂へ宅る名浅因十郎。再村めてまきとふ。江原の  
 梅幸一世代と忠臣各あつ種あつ藏あつ幸五郎とひせ。由良の助。作あつ妻あつをあつ勝る。あつる母と。之後

芝居  
七  
日

010190605600

松助俊谷判官と云はる二役園十郎。定九所奉を天川と之役す之前。お石とおやの  
二役令能。お石は直助。幼奉と石堂二役門之助。若狭之助と九美二役助也。示はるら  
産をる。お石は若狭と若狭。小浪万葉。カほふ吉次。信因と甫登。了作お松幸太七。  
伊み仙玉奉助也。何とも大でた右今の太入大と南り梅幸伝ひの縁りお。  
小六月らのおげら信し。扇うお。尾上梅幸。此のうらめしきものありて世を。

園十郎に上り梅幸各殘狂云太南りの辰中村屋の合浪星といふ。平に合浪星といふ  
目ゆら早見と沙汰するゆゑ見物の縁は。九月九日より始大南りあて。石物へ志願の  
棧あする切落お信りて。舞臺の六分棧あを格入る。具はその趣とらん。奉あての  
回あて狂云を起る。十月十七日まで棧あ付込御今日本秋来の正之役老助を起る。  
廿夜吉例のよう。顔見世入替り役老若初番五幕方へ集り。それより樂を三階へ入る。  
あ初まて真行のりるをみるるまゝといひ。されば元文五申年市川おひる鍛五郎  
大南り矢の根奉といふ。梅をまき芝居おのりて又世夜後舞臺て忠臣奉といひびり。

叔又孝公奉ハ京都入登り。四條山下八百養府あて顔見世。其時菊旗奉行所附り上  
去八月廿日お退せせを堰町より頼といひ園十郎お指の辺り上り速敷。若おの暖簾  
中居おおおおまご三并の紋を付とあや。同八月森田屋**紅白彩茶流分**。奴仲平仲翁。  
柳井隼人園翁。依々木五斗の助八百翁。上澤内なるおお馬。お房やをを老世。二む自  
中居のおまん里好。若若のおまん里好。若若のおまん里好。若若のおまん里好。若若のおまん里好。  
府**廻翻錦辻**上総五郎三浦忠光園十郎。六十六部の修行老實六鏡西八郎仲翁と  
あんだんまの幕あてた。園十郎お坊平太のひら。おおとて。後おお家お郎光盛と  
おお。平のお盛字十郎。伴おおあああ。池田の宿の宿。おおおお。上総助老屋お八百翁。  
清士の落平仲翁。常盤洋兼お浄のり。色映紅葉章仲翁。布衣の正徳大澤判。  
二は目録平兵衛園十郎。お朝といひ。おおの太南り。石像の不動園十郎。おのたる童子  
八百翁。おんから童子と申す。一の太活おや。同市村屋**高松雪櫃**。佐若次信松奉  
幸四所。田代の冠老と申す。次信一子鶴若お坂東三田。八今の坂東。お丹おの正徳相勤る。

尾張藩の羽佐將の清花彈の左門助五郎然并を所忠基門之助と云く大業  
後希屋より花うのち業定の大和國小女舟旅業を忠心の君なり中山富之助より経  
二十五三目 花うのち業定の大和國小女舟旅業を忠心の君なり中山富之助より経  
門之助四年を勝忠信とは五年武井坊無事なれり浄より十二段君色音 富本業  
を文信より大元二を元目信勢の二所業四所尾旅の二所之は五郎由利の八所を云る  
尾が妹ハを直は田郎と云る所は小津の地獄と云り市川字三改をり日毒田屋  
時江都初雪 嵐離助下り渡辺丁七唱業地惟弘二役猪の早太忠純と出徳就忠  
左助女房おせんと巖島の大女お常世丁七女房と云る所は平治盛と獄中の  
次を徳前を教の判官致之節田東又冬前中を平治盛と獄中の  
七郎宗法と云る所は坂東又九郎信より大元大元なり

○嵐氏の傳は白嵐と云ると大坂根生古来の太夫元株之法は家の藝これ江戸  
ゆへ丹前と云ると元接西崎新平と云る老の子は江戸と云る或付小夜嵐と  
いふ狂言中て南のをとりよる嵐くと云るれは夫より自然と苗字と成今世上

の嵐と名のる老は此家より出づる所はと云ふ宝井其角も難波と云

一 流人や嵐芝居を云ふことと 又二代目之老を林美と云

一 くらが花きの子い子ころり云々 是五元在業よりの右二代目之老は

後年新平といふ今離助といふけ新平女子小六の子也此小六の母女形極上上

吉の老老徳傳の寅年の類は母は戸中村度下り天地太平記は後後の二所妹

九子の役中て二升のそふ袍をまて皆の出まも栢庭との傳は初三年ま書始和

曾我もむろの役は所元り巻のも細海の子孫今も小六海といふ中村五郎年の

間の狂言の前は述とれ記さる及がと夫より本大坂の勅中て明和六丑の勢は世

より本目嵐之老と改立役と成安永四未十月八日より二世一代と云く山崎の

西飛る子息離助怪童丸の役古今の大業を舞納村は行年六拾七歳と

いふ舞臺の出勅元平二年の間目出とて居居して今安永九子年を命するの扱

離助といふ名も小六は古栢庭より排号を離助と貫ひ今眠獅と云く幻名


岩波野といふ姓長く宝曆二年手と持大五身所て敷小六の誹名とてに雑助  
と名ふ小六の是より杉鳥と改心。雑助初希基の後面布まじり。五木賣の所  
大南のこまより次男に立身して行ゆく若女形の大立者と然らば明和六年  
大坂まで双帷の清長公命とあるの女形派より記れる所の評判書にも又  
右の二役助と云。日に洋判秀と安永四年八月元振と九月十日の二役と改て  
一の谷は行々と然谷二中大南の土所の句ふ。

「若目負のかつらぬさや男松 眠獅 まより南の狂言希基とてに」と  
眠獅標ふ出り此後いへりても致正可といふ文字を回二升まじり又いめの正  
を中村屋のかつて二升の改せし。右右相庭の名存親といひ小六南比居位の内今  
之升初名書。史記を平田家とていふ所勝間龍水先生のえへまむ御書にいひ  
竹馬といひ足身回りの周のあけはかりといふ上小述するなり。

「ありがらや江戸後の数ふす至結 眠獅」といひ強りのるを平下ふ。

「形見せやとかくあひしは南のそのの 二升 かき南を縁らる中より」  
同二女目 **纏女房** 逸平と重の井二役雑助大南の夫入狂言の代名の死故まいぬぞ  
有なきと見物待し亦年内未都へ坐しての残念。二代目雑助江戸とて大南のの改。次の巻  
小教く述る **安永十三年** 春中村屋市村屋左町教候と。表田屋 **陽春吉曾我寛** 伝経不  
園義十前改之節。五郎と表之節。鬼王おん傳。船は系ふ坂東慈十郎。公嘉武も傳。宗の次郎  
二役又老節。小後老ふ四季十年。八幡と。南をる。二役またら伝吉。ゆとも。小性吉と。常世  
お七ふえ年流身。義法園義。伝はも洋判は。証て **忠臣蔵** 園義七役。塩谷判官。まにせ。  
由良之助。大鶴。文吾。定五郎。与一。清。義平。本義。おん。勘平。紋之節。おの。え。常世。郎。  
平をらよ又老節。降座と九をすおと甫をら。おその常世。若狭の助又九郎也。伝はも洋判は。  
**牡丹分身縁** 市川園義石橋の正傳と出。夫入大洋判。行ゆく。忠臣蔵。も。義。出。ま。ん。て。  
中村屋 **色重通曲** 伝経。園。十。年。伝。成。と。船。比。系。宗。十。年。附。下。ふ。八。百。五。大。房。丸。尾。上。  
忍。之。助。ゆ。め。と。八。幡。お。里。好。同。の。さ。と。ふ。あ。や。め。二。役。ゆ。め。と。也。鬼。王。新。左。の。松。助。月。ま。は。お。節。

名三郎と遍照めりや柴仲義。たぐして後ふ牛の形ふる所大に死。小町山下方家なり。  
らからう受。夏六七。傍多法園十郎。誦狂言。在原宗圖。花柳の忠法園十郎。老蘭平  
仲義。四月十日。年号改。天明元丑年。四月廿一日。市村慶去狂言。戲場桂萬代曾我。  
祐経幸四郎。十郎と津五郎。ぶ家門三助。宗法羽左衛門。九姫兼之丞。あやあ七并心。  
みきの多。市松。せうく富之丞。小菰老宗三。八幡土十郎。宗三。年三。番。女房九市川  
存之助。とうごう丸。田八郎。比奈助五郎。二。同江戶。京。大坂。の。津。取組。日。替り。

 富本齋宮大夫 同豊喜大夫  
富本豊前大夫 同飛佐大夫 三強  
富本安和大夫 同豊名大夫  
名見崎徳次  
市村桂  
機田治助作

おぢの 市川門三助  
道行比翼の菊蝶 日初

○この日かきり。習名あはし  
かろくや。代。子。郎。は。あ。ま。り。  
は。ま。ま。の。源。田。平。を。ら。八。百。を。後。取

おぢの 瀬川菊之丞  
道行垣根の結綿 日二

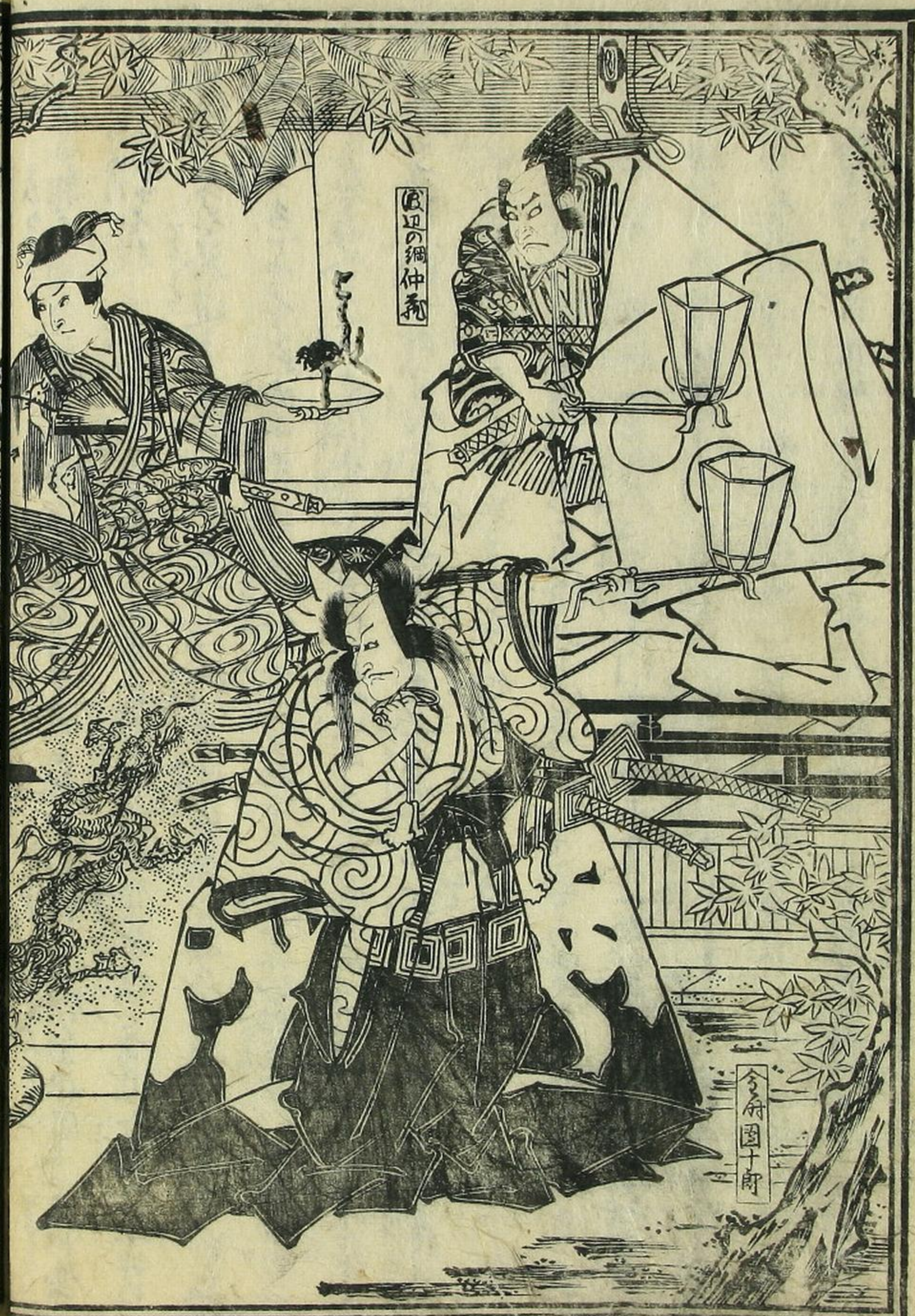
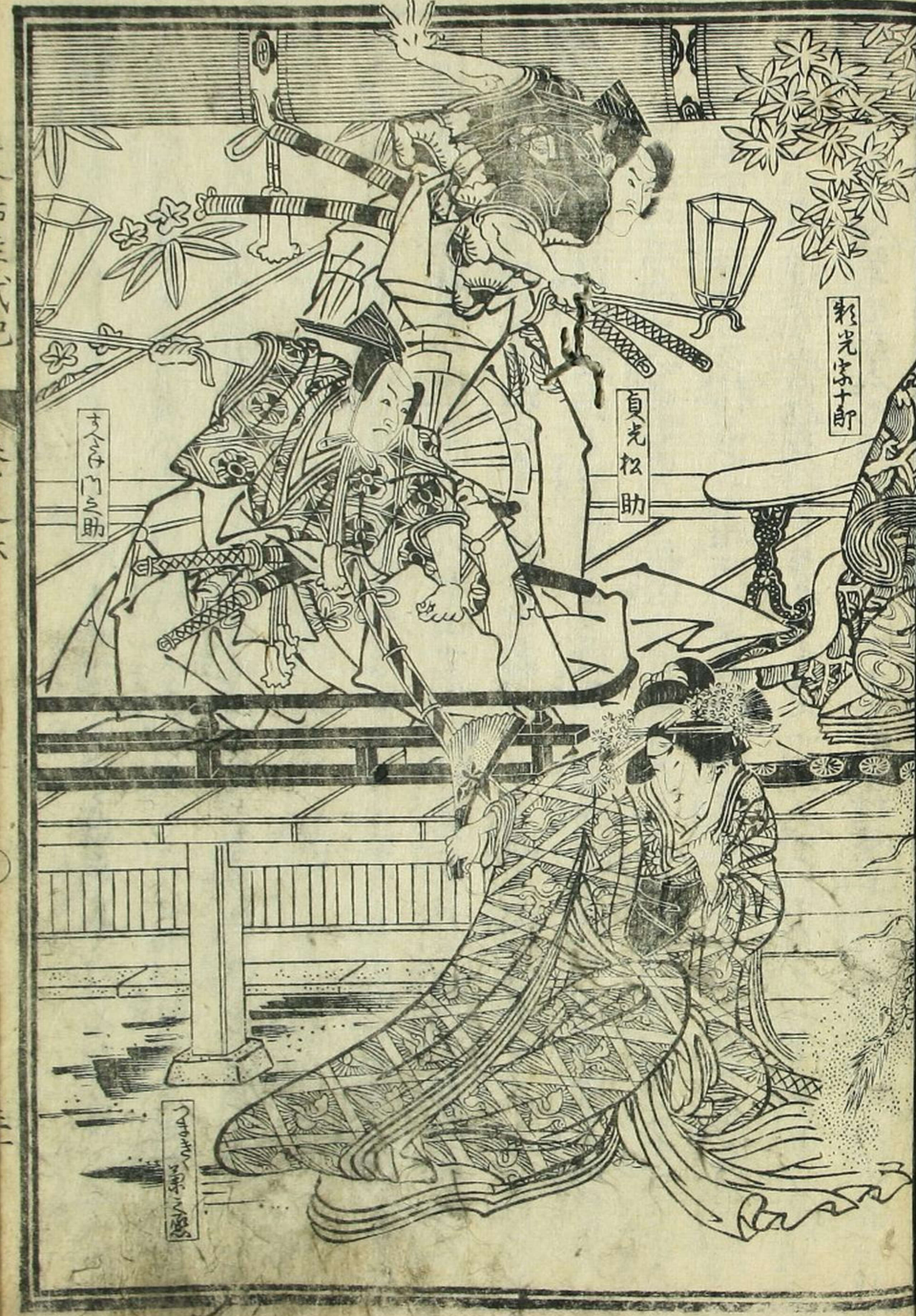
あつち五夜友を遣。おぢん母妙さん。  
在々の源十二夜。之。津。五。年。八。百。五。場  
十。子。郎。奴。弟。助。二。や。門。之。助。山。の。ま。き

おぢの 長右衛門 松平五右衛門  
道行瀬川の仇浪 日三

あつち五夜七夜。松平次郎。八とを。おぢ  
び。の。お。ま。ま。の。年。長。右。衛。門。女。房。と  
おぢ。の。婿。二。夜。七。夜。松。平。次。郎。八。と。を。おぢ

を。年。三。清。夜。は。は。身。心。ゆ。ま。も。古。今。の。大。入。出。出。り。秋。ま。を。續。く。中。村。秋。雪。月。花。の。汲。向。き。  
け。長。鴻。重。徳。七。種。四。郎。と。岩。柳。仲。義。天。竺。極。を。傍。三。月。本。武。老。之。助。園。十。郎。終。生。法。法。宗。三。郎。  
天。馬。を。お。初。里。好。ひ。く。は。後。を。傍。字。十。郎。と。八月。十六。日。より。信。田。長。春。桂。小。山。判。官。と。阿。房  
の。持。義。園。十。郎。け。後。親。園。十。郎。大。崎。の。狂。言。お。山。で。ご。ん。く。とい。ふ。屋。小。山。の。と。ろ。大。で。は。  
か。ぬ。五。年。と。浮。流。の。彈。正。仲。義。質。つ。ん。が。お。て。流。流。の。兵。庫。度。を。ら。の。悪。奉。一。味。の。根。柵。を。年  
ま。返。は。も。次。去。る。幕。の。り。大。結。將。門。の。神。皇。ま。で。古。栢。庭。の。役。七。七。人。の。小。ま。郎。七。人





徳田の綱仲丸  
今村十郎



本名とありとと責とありとあり城門之助謀ハ五位と助忠家と。汝をたづる討略とて  
 國防の内侍兼と忠波辺支ふお始終を語り。室期の正まより松助引腕いさう大勢と立有。  
 栗の末又次彦をら。之田源をに又次郎源の頼信松平小次郎。又助孫を連つ着を又次郎九年。  
 何事も評判大とあり。市村を起し昔男曹離形。志との國浅間たる幸田所し。世の國朝終  
 在る。市下り坂田は五郎。女台並佐吉のおねけは四郎。かきのみまはあやめ。栗の源を直とを  
 大江の忠彦をら助五郎。惟高親王松本山十郎。市松 狂と五郎。照門も藤原。初と  
 せと。いしのごんせの坊後孫。桂の令吾紋三郎。相月十日より始り。延門のあう不入。同本田所  
 桂三吉野 篠塚平助と且村平彦。後直面。市妻藤原。所ま。之海。市。ま。白の。下。は。し。  
 それより之直の正能生等の正ありて。新田義貞八百をより。兜を法入。次。お。氣。比。の。宮。目。  
 め。位。と。ぬ。実。の。白。濁。の。移。あ。て。正。能。河。内。の。兵。衛。娘。妻。木。よ。り。嵐。此。雲。勾。島。の。内。侍。  
 有り。尾上小吉。浄より常経。石。海。兼。を。又。て。四。人。正。能。大。お。南。大。炊。と。助。実。の。相。種。後。と。  
 財行園。二。役。栗。生。た。ら。も。評判。は。し。天明。寅。年。春。中。村。座。七。種。粧。面。鏡。社。狂。仲。五。二。役。

満口にあふ。十郎。ま。お。十。年。五。郎。門。之。助。け。の。飯。の。お。お。万。き。お。し。と。松。助。を。取。て。淨。正。  
 あり。腰。より。府。匠。徳。市。物。市。川。徳。義。六。代。目。月。さ。よ。ま。ま。と。忠。小。者。を。度。右。八。懐。又。き。  
 大。夜。の。虎。小。里。好。渡。て。と。の。團。十。年。二。役。目。荒。五。郎。茂。多。清。と。女。奏。之。并。五。十。三。年。実。ハ  
 忠。清。と。ま。き。く。に。弟。と。忠。幸。助。中。門。之。助。霞。の。五。年。三。清。字。半。年。お。し。と。及。善。信。仲。五。  
 松。助。向。坂。と。内。と。い。ふ。味。之。と。て。新。井。の。柴。折。門。小。編。多。多。て。ま。て。丹。内。ね。け。て。二。階。より  
 大。姫。君。あ。て。出。る。事。務。り。忠。小。大。姫。君。障。子。と。立。切。と。浪。人。あ。と。ま。ま。と。ま。る。そ。の。お。ね。け。と。忠。清  
 の。目。を。奪。う。と。後。に。團。十。年。助。六。徳。角。小。里。好。ま。久。仲。五。白。濁。より。字。半。年。と。入。と。門。之。  
 松。助。浄。より。字。半。年。夫。助。六。曲。輪。名。取。草。紙。の。平。甫。善。鬼。王。小。次。郎。紙。衣。と。出。  
 又。見。の。初。め。も。源。判。よ。く。大。入。大。南。と。市。村。府。の。春。より。菅。原。付。平。甫。右。白。ま。ま。と  
 源。善。小。は。お。年。菅。原。相。と。松。王。羽。左。と。と。後。の。ま。ま。友。善。と。相。手。と。て。土。場。の。切。免。巫。山。伏。  
 の。正。能。を。出。と。ま。より。伊。達。鏡。の。か。手。通。隅。田。川。柳。伊。達。結。ま。の。川。谷。新。実。の。奴。軍。助。五。四。郎。  
 と。お。ね。け。と。お。ね。け。五。年。山。田。の。二。郎。後。原。や。む。せ。あ。や。め。と。お。ね。妹。か。ま。り。は。四。郎。と。尾。上。五。年。

芝居集行記 卷之六

三十一

吉田大馬名。これのき致之。比企の判官、浦を。久米の平内なる。二。五月。油。五。お。藤。百。二。年。久。松。こ。は。松。様。新。町。の。侍。多。佛。孝。四。年。面。打。か。せ。赤。を。ら。し。羽。左。衛。門。切。狂。之。龜。山。赤。堀。水。を。ら。し。年。在。井。内。中。に。は。く。は。月。より。狂。言。か。り。信。田。護。世。經。記。信。田。の。左。衛。門。孝。四。年。小。山。の。判。官。は。五。年。桃。室。を。は。か。め。や。め。常。盤。井。に。は。四。年。海。の。夢。面。之。ま。り。孝。五。年。後。松。様。評。判。う。そ。切。お。羽。左。衛。門。一。世。一。代。の。助。六。の。ひ。巻。は。甲。午。伊。久。ま。す。孝。五。白。酒。う。り。孝。四。郎。淨。福。理。江。戸。太。夫。河。東。助。六。所。縁。淨。櫻。二。の。宮。の。師。ま。の。や。め。又。孝。五。の。ひ。後。朝。は。孝。平。徳。次。を。ら。し。孝。五。の。孝。五。年。病。氣。身。後。松。様。孝。休。孝。四。郎。の。助。六。と。ぬ。白。酒。後。孝。ま。孝。助。右。切。お。羽。左。衛。門。河。東。市。之。里。神。樂。の。正。傳。後。孝。富。三。郎。又。人。を。相。手。お。助。也。之。月。より。森。田。府。の。春。壽。常。盤。我。五。年。十。郎。二。段。之。津。五。年。之。又。松。様。と。飛。弾。の。た。く。之。國。系。古。子。買。八。十。兩。実。六。京。の。次。郎。助。也。月。ま。久。年。孝。五。年。小。友。を。孝。十。郎。八。段。之。前。流。五。年。二。段。目。お。孝。人。常。世。盤。我。の。ひ。侍。多。佛。實。六。山。田。之。郎。お。三。海。之。郎。梅。右。丸。坂。東。已。之。助。其。孝。五。年。次。お。國。系。大。津。経。の。正。傳。後。三。海。之。郎。法。法。孝。大。

評判の正。同。公。比。ゆ。く。引。引。て。醫。療。を。ほ。と。れ。と。限。め。り。と。ま。や。此。狂。言。を。名。義。と。し。て。終。る。小。蓮。堂。の。座。至。り。ぬ。營。功。院。是。業。觀。道。信。士。天。明。二。壬。寅。年。四。月。十。日。俗。名。坂。東。之。津。五。年。上。芝。傍。田。寺。中。に。印。を。残。と。中。村。府。八。朔。より。伊。達。法。師。講。釋。名。古。龜。山。と。さ。ら。ぬ。や。左。衛。門。系。國。十。年。不。破。は。な。ら。仲。松。在。左。衛。門。法。房。お。ら。し。弟。孝。五。一。子。孝。松。市。川。被。殺。か。け。く。ま。ま。お。里。好。足。利。松。兼。と。細。川。勝。元。孝。半。郎。山。名。宗。全。と。ま。波。瀧。孝。二。段。松。助。荒。御。子。男。孝。三。段。石。堂。内。記。門。之。助。大。江。の。國。幸。鬼。貫。小。次。孝。五。名。和。を。法。之。助。大。七。と。い。ふ。庵。之。浦。孝。二。人。信。土。子。の。乃。哲。國。十。郎。高。尾。ゆ。の。魂。弟。孝。五。忠。淨。より。新。曲。高。尾。懺。悔。富。本。孝。五。名。ま。ま。お。て。正。傳。一。座。評。判。は。市。村。座。五。月。濱。真。砂。津。御。紙。石。川。五。を。ら。し。孝。四。郎。二。段。と。い。ふ。や。太。四。郎。月。妹。お。ら。富。三。年。せ。り。川。村。お。ら。し。の。あ。や。め。太。四。郎。母。貞。照。と。下。記。袖。助。お。紋。三。郎。桂。川。長。圓。と。後。新。真。賣。小。朝。の。流。五。年。こ。は。松。様。細。川。政。元。羽。左。衛。門。孝。五。來。田。府。の。五。雁。金。丁。子。大。七。中。村。重。松。極。中。お。孝。孝。一。勘。左。衛。門。雷。左。衛。門。五。年。並。並。又。九。郎。布。衣。市。右。衛。門。四。年。十。郎。安。の。孝。五。年。浦。右。衛。門。又。九。郎。同。形。人。世。中。村。府。五。雁。源。貞。振。袖。浦。の。平。ま。ま。不。負。の。國。妙。と。廻。國。乃。

芝居年代記

修行者鈍意安ん安んの責任は十年。故にせむびのうへ年市川海老市川海老將督修り修り  
 八劍の王子幼左衛門天竺冠者安ん相持を年秀國又を郎被修り入道鬼門之甫在石塚  
 角之安ん大七八重機帷より業頼通の息女七後姫市川無之助山栗とて平安の伊奥  
 の十所松助令の八年為耐市川井五郎。尾上政経國十三年身守り成政名一と八幡を郎より一を必  
 字十年後倉の権五郎を政門之助万守郎女若の形をせり出。若より妻駢の出守伊妹  
 若知る小は四郎と云ふ  
 瑞翁のののの  
 理 對の春駒  
**陸月戀手取**  
 富本齋官大夫 三 各見崎徳次  
 富本豊前大夫 味 同 連中  
 富本豊志大夫 線

次は門之助佐伯の義人然て取を彈とあり。國守宗行也て雲上の雁を射下。松助修を廿十年  
 腹切の二國十所國妙大活南於西大寺愛深羽王の靈像依まとも大評判大あり。市川海老  
 伊勢普榮花替上総の七郎重徳と兼存暫し清の内大信定盛ふ後存。腰舟の五年かげ冬  
 助の如く船皮のた布お然十年之。故後召出武紋之郎。建春門院の侍女雪の戸信之年同  
 一は末後存。同者夏芳は五市市。濱辺に在る涼の直守四郎。直が妻はと安の三好。

# 表源氏自伝袖

中村雁

市川海老翁 少年 五女

「さあめち、まうとく。」

さんむそらうから  
 仕切場へ錢を引こむ  
 五車のむんとを移るる  
 あひ奴どのむかみむ  
 二井がやあまくれかままり二大持  
 三代二葉のかん教えん世はなむも  
 らせむびあうへいと。やうやまうてり次。

右古栢蓮作 五代目 市川團十郎略之



▲下のえんどうひやりのつか  
 つまきまゝ武者盛遠仲長けさけ宗の首を付雲達と速くする事。それより母中津安  
 たら射の立大評判。今ふいに伝ふ。宗平清宗清羽たる大結才智の不動の靈像大  
 だ。森田座**時花雪高詔**。怒井寺と。この寺即坂東又九等。源の義隆市山助十等。契  
 みちのく山松之忠後小改名。秀徳娘てり。坂田吉吉を弟。宗平の子松坂東之田八五ノ  
 不飛者。淨子の常盤津芳を妻と。天明三卯年。妻中村座。江村三郎。我松後園十等。  
 祐成宗十郎。村家門之助。二役法。鬼王と。下給細平に園。智昇と。世の次。三備。  
 實の山田の二郎八百義。八箇の三等松助。近江の小坂を助。九郎。又と郎。七郎。  
 軍助小次郎。吉田の良女。橘ひも半四郎。二ヶ月。雪の下。質を信。之甫。我  
 鬼王と。鬼家の下大評判。大で。後。松。橘。淨子の園。十等。この下。能。二。八。八  
 知川の辰。も。あ。八。四。郎。信。三。清。八。百。義。白。夜。赤。を。門。に。分。富。本。連。中。津。子。の。け。と  
 才智の。下。大。高。の。其。跡。弟。之。忠。道。成。寺。の。不。飛。大。で。也。市。村。座。の。月。壽。萬。歳。也  
 祐。經。寺。四。郎。十。等。紋。之。等。五。等。ふ。こ。は。義。也。此。比。宗。助。五。等。鬼。王。度。次。か。げ。は。と。か。ご。う。也

湯田の八義。実の久氣の平内仲義。梅組合谷の令五等。実の軍助。幸四郎。又八人の。と。と。  
 八箇の三等女房。うらまみ。よ。あ。や。ち。小。坂。女。房。と。と。と。義。也。子。内。女。房。も。と。里。好。せ。う。と。也  
 富の郎。後。ふ。き。忠。幸。四。郎。幸。信。仲。義。を。食。の。茶。汁。湯。の。不。大。高。の。二。等。め。柳。橋。の。惣。家  
 かくの小ま。里。好。は。八卦。神。傳。を。内。仲。義。と。郎。大。助。と。は。義。と。殺。と。亦。め。り。風。流。五。等。八  
 度。次。町。か。え。令。五。等。幸。四。郎。信。也。も。大。評。判。後。日。羽。左。衛。門。百。五。十。年。の。壽。也。富。四。月  
 十二日。より。十日。の間。こ。ご。ま。ま。ん。ま。の。九。代。目。

壽萬歳

市村羽左馬 市村龜義

街道下

市村羽左馬 市村龜義 吾妻義也 卷六あり

中村座五月九日より **忠臣藏** 石堂右馬之丞と。幸義。平右衛門。之。役。園。義。判。官。と。十。等。郎  
 門之助。宗。平。と。一。等。清。小。次。郎。源。重。と。幸。信。寺。助。左。衛。門。定。九。郎。と。幸。以。村。千。蝶。松。助。助。平  
 宗十郎。か。は。よ。は。義。の。四。郎。も。その。お。石。也。も。三。役。也。あ。う。は。と。ろ。各。二。役。義。也。忠。信。也。市。村。座。  
 九。等。夫。又。幸。郎。松。井。若。松。之。助。と。赤。五。等。八。百。義。大。星。由。良。之。助。園。十。等。大。高。之。入。り。  
 森田座 **鏡山** 尾上。常。世。也。又。三。國。富。士。之。等。評。判。也。後。日。梅。川。若。世。也。又。九。等。





日四郎。大入大司のいふ二月廿四日まで。身行を返すのあつるを頼みかすつて。

吐ふれと教もなつかし。雄子のあま。五代目。二升。

同歳田産新曆開曾我。祐経書四郎。祐成致之郎。付字こはる。むこやあやめ。おひら

幾代。せうく富之郎。おんまの小ま清実のうり。伊豆の十内助之郎。祐経おしる血紋を

吞て嘔とるりのあ。十内援全切筋。鶴の血と合せて平金させ敵と各をあらせる。ふは

田。四月廿八日より。二柳徳次郎より。夕方の夜。佐左衛門。平幸四郎。平後柳川右衛門。おん

歳。清二日。替りふ動。清より富本。致之郎。おんまも評判は。市村座。けい。おんまも

東大坂二の替ね。おんまの娘向のあ。おんまの娘。おんまの娘。おんまの娘。おんまの娘。おんまの娘。

後父の重忠。鬼王。祐成。二夜。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。

園。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。

赤ら。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。

評判より。三月廿日より。中村座。曾我娘長者。祐経。園十郎。祐成。八百。おんま。おんま。おんま。おんま。

二夜。門之助。大房。丸お。四郎。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

里好。祐経。と。お。

お。

妻。お。

お。

小。お。

お。

お。

お。

お。

お。

お。

後秋箱蓋金屋（中村仲務）飛入不破の侍を（中村仲務）かつたゆ之柗徳次郎伊勢守持出する  
 狂言加賀の中詰を枕ふとる子あり。名古金山之番四郎大てれ後不番四郎大坂宅名狂  
 孰袖錦紅（福澤幸四郎）と徳次郎おほ富之郎。長をうき中番。休も評判よ。大  
 あり。市村座名代替舟秋狂言休。中村座教えせ大高野小嶋（股世の）番園十市。川は  
 の三市半半。はしゆ之柗徳次郎股世麻油助の命。志田の与市八百義志（折）お茶  
 之柗徳二風新ふ里好（江戸の）小四郎多附佐の川市松（中村）頼朝お教之命。信友入道  
 度右馬（二）員地獄谷の法左（坊）園十市。多智所通（山）木香（た）る（た）十市と頼朝  
 と情の深氏をまじ（）義朝の白首を打擲する。昔なる願も思（）らふ字とて戸羽の  
 のぞふも羽の思（）家（）の思（）源（）て園十市文學と名宗源氏再身の院宣  
 を（）ま列（）る（）大（）洋判（）多（）お（）五（）限（）實（）の付政息女政子の長万兼下田のお猪  
 里好。實（）の（）は（）ぶ（）娘（）徳（）源（）お（）て（）政（）子（）を（）は（）ひ（）お（）朝（）の（）隠（）れ（）家（）へ（）た（）る（）も（）す（）。



謡物  
 馬揃  
 那須  
 與市  
 大鞍一挺

芝居年式己





蒙 御免此度  
歌舞妓芝居座  
興行仕候  
元 桐長  
天明四年甲辰  
霜月朝日ヨリ

桐氏家譜

幸岩與太夫 越前国幸岩小八郎第子 伊豆国大場村ノ住 與惣太夫 与太夫實子

忠八 与惣大夫第 後法幹真盛ト改 五右衛門 忠八子 重右衛門 五右衛門第 男子無之

女子長桐 重右衛門娘 是ヨリ女子三代々相續 犬桐 長桐娘 坂桐 犬桐娘

桐大内藏 坂桐娘幼名千桐 御當地は 罷出寛文中於木挽町芝居興行 後中絶 大内藏 大内藏娘

桐長桐 今般於 萱屋町從當甲辰霜月朝日 歌舞妓大芝居興行

元祖與太夫至天明四年二百四十五年ニ成

けつりふ 祝言の盃の亦尊なる女房唇唯小徳ニ奉。嬌媚の場中の度なる長田の亦奉。て  
 字中奉に殺さる。亦二階せり上大及具花か。市村座名代替り桐長桐と成。重重断橋  
 出羽郡司小野良実叔人瀬系。二役仲系。ちの小町弟。志荒卷耳四所下り中村十系。  
 盤名五奉にて。門三助あ。く。文香の秋深尾上松助。二役橋の逸成。あ。ま。く。傍都あ  
 中村は系。て。塚と堀。て。骸骨。と。杉。生。ま。せ。る。松助亡考の形。并。あ。て。移。る。細工。く  
 大評判それより暫の信大江の書。戸。を。又。奉。郎。孫。の。後。成。か。之。代。目。は。五。奉。之。輕。風。か  
 武虎。廣。次。大。等。八。所。言。番。系。二。友。目。南。世。比。系。の。元。八。半。か。い。追。分。の。又。助。は。五。所。  
 町い。や。山。井。を。仙。大。谷。徳。次。を。ん。ま。の。長。を。ん。度。次。小。未。比。子。未。賣。か。は。毎。之。助。八。所。  
 是。未。賣。か。は。の。瀬。川。富。之。奉。の。海。を。り。積。戀。雪。関。扉。常。盤。津。系。を。吏。連。中。之  
 けい。せ。ん。子。登。津。瀧。川。系。を。之。出。四。位。の。お。ね。お。貞。市。川。門。三。助。関。之。清。実。ハ。大。伴。子。等。中。村  
 仲系。之。は。且。亦。大。評。判。大。南。之。森。田。在。曙。岬。峯。夫。女。嫁。入。大。友。の。自。主。子。幼。な。り。力。士。之。奉



大伴五郎仲虎

目録

行政小次郎令賜五郎久米谷佐の川市松後松岡之郎八百義  
 け見世下り役者万々令中村屋より市松八百義主人二女目を助る一女目市村羽左  
 出助比去産狂言信田今様館今様狂言金付松幸小次郎附淨海理 蜘蛛絲  
 幻雅問答切禿ささう。知しき。橋太夫元家ト四役市村羽左并歌上り老松  
 千歳藤今様狂言貞光同五郎附家二役森田助弥天明元年去中村屋 初花親  
 子左衛門とそれ十郎お字十幸五郎と鬼王下河辺の行平が娘白糸と役八百義月さよふ  
 里好。知しきお助五郎。志之郎と満江とせん紋之郎太後の虎と耕徳次小者お小座をん  
 八幡之節と佛徳源とてう六番浦実の末の次春園十幸也。八百義意賣字十郎耕徳  
 四人おし正能。先年雷お助とてう。浄より 忍戀柳桂男 六主目 富本豊前を夫富本  
 妹を夫は安和美之法各見寄徳次同志惣次之ゆきも又高。二女目はおし汗と士  
 流の事。令神長お助に紋之節。主人お助の男をて集の依りお助とてその之徳助を  
 をひつとてう。お助はくしのせのぬかて荒る。おとろお万義。徳を清小八百義。長義

小室十郎。松島のむすろ實のゆゑに徳次郎。油五平治園十郎。中と敵めて徳次郎に殺され  
 子孫の景徳にけむる由縁の親玉の勅也。五月七日。室町櫻舞臺。不破付たる  
 と山名宗全園十郎。各古金山と。狩野宗之丞。信宗十郎。二十石の返向の狂心。  
 かつた小徳次郎勝元と。又平八百并之役古金山公。おつま里好。浄多。坂町骨  
 四辻富本齋宮。又獨吟也。大前。同市村。一世一代の狂言。人形の正徳。大入  
 大前。中村。同春。柳。重重言。徳狂仲。二やちの塚。持徳成と吉。中  
 酒樂。実。吉田の。小。軍助。小。門。助。田。け。や。お。ま。や。と。我。の。二。の。五。郎。附。宗。三  
 後。質。耐。宗。孝。之。郎。と。も。藩。系。友。人。在。野。や。お。秀。大。後。の。虎。常。世。大。や。丸。と。宿。中。間  
 ら。き。持。助。お。松。助。新。し。き。音。八。猪。首。は。る。勝。又。孝。郎。月。さ。よ。に。友。系。お。平。次。小。大。谷  
 徳。次。弟。の。次。郎。小。中。村。十。兵。衛。二。役。八。幡。の。之。郎。近。江。の。小。友。と。赤。次。十。内。又。浮。所。林。忠  
 右。左。度。次。之。後。日。弟。之。忠。五。変化。の。正。徳。白。酒。賣。助。六。郎。郎。羽。根。禿。石。持。付。内  
 川の。禿。の。評判。は。し。次。小。弟。之。忠。お。七。也。江戸。を。東。浄。り。に。て。夜。の。編。ま。の。正。徳。助。

徳川富之郎。大谷徳次。友人相。三月廿五日。江戸。佐。國。七。緒。園。七。お。仲。系。徳。三。信。門。之。助。  
 お。ら。し。も。辰。事。之。忠。浪。浦。小。友。無。及。真。玉。孫。次。存。産。三。平。次。女。房。お。ん。松。助。傳。お。  
 音。八。奴。之。平。又。孝。郎。お。七。也。の。之。忠。お。五。郎。玉。勝。う。斗。十。兵。衛。中。村。屋。菅。原。菅。原。お。  
 宗。平。郎。同。秋。権。野。源。詞。羽。付。村。中。徳。之。後。小。孝。助。八。百。石。女。房。お。子。と。二。や  
 言。返。彈。正。園。十。兵。衛。竹。田。勝。頼。宗。平。郎。村上。信。助。五。郎。姉。お。室。屋。里。好。け。の。甘。田。毎  
 三。株。徳。次。弟。後。小。田。本。出。世。鑑。木。下。兵。吉。八。百。石。武。如。園。十。郎。之。跡。を  
 は。た。し。の。錦。上。及。次。弟。た。ら。ま。十。郎。非。人。お。子。傳。評判。は。し。桐。花。木。代。始。音。頭。瀬。戸。海。城。玄。満  
 の。灘。右。へ。仲。系。と。う。こ。小。孝。郎。弟。之。忠。浪。川。義。入。中。村。十。兵。衛。雷。音。助。と。松。島。七。十。三。郎。  
 み。ま。は。せ。ん。大。世。事。孝。郎。お。七。也。孝。郎。信。村。彈。正。お。松。助。鬼。が。嶽。大。八。や。り。じ。音。八。小。倉  
 何。を。ん。又。孝。郎。か。し。し。の。お。ま。人。友。系。つ。い。せ。ん。浪。富。孝。郎。女。順。礼。お。ま。人。お。孝。助。  
 船。頭。ひ。が。ね。の。お。弟。信。度。次。同。後。の。お。弟。信。村。お。五。郎。お。ま。の。お。九。郎。お。ま。は。孝。郎。南。刀  
 の。傳。也。徳。次。弟。之。忠。狂。心。仲。系。海。城。し。ご。う。丸。お。ま。お。ま。の。徳。の。正。徳。助。

慶徳使の正捕手大勢雀踊の形をたてて大評判同様に母中村屋  
 の順れ長三郎。実六長田の正前京宗中山小十郎 中村仲義 録倉順れを弄七実の悪源を  
 幾平首義。然舟順れ十能。実八小松の重盛守十郎。之入合し大評判。後小十郎  
 本石八丁礫の紀平次後園の火燈の形をして先道之行跡より小十郎を驚かして進帽子  
 料衣の形をなすれを持衣の裾入を弄ひ入り。本邦舞の度派赤ぬりまよ上下の形  
 難波の次郎経を弄て出。八百義悪源を忍びの形。ゆきも割のはらちたまりを立廻  
 のり。弄を扱ひ雷鳴。四人入の松子幕大に。ごんぬ踊り。風曲江戸妓。富平平義。美  
 お節。めんが。し。由兵衛八百義神。勝たぬるあり常世。七つ松の娘。是行。富三。小松  
 の重盛守十郎。奴務平。傳九郎。美。城が妹。子。後。不。法。西。八。郎。為。物。中。山。小。十。郎。六。之。花  
 之。元。は。と。仲。義。伴。万。能。改。名。一。て。中。村。仲。義。と。成。る。


○傳九郎曰中村仲義実父の由ある武士にて浪人の身と成。海川辺に宿る内妻と長病  
 ぬて幼子を捨てまらりる。年月を送るうち朝文の種を結ぶる高て江戸町

在かの幼者の身と行連てせ。見くをうじ。使を町川原。中村屋酒屋の有り。是へりも  
 耳りて。公。舞。り。し。が。或。射。酒。屋。の。ら。む。向。ひ。長。松。の。娘。は。母。も。は。れ。勝。た。ぬ。り。ま。よ。

な。の。ど。も。我。身。の。か。せ。な。れ。し。成。方。も。て。も。養。ひ。と。れ。ぬ。人。あ。ら。ば。は。世。活。難。し。い。と。い。ふ。

け。生。質。よ。き。男。子。か。ん。ば。ま。い。え。祖。中。村。仲。義。本。妹。後。家。あ。て。踊。の。指。南。一。居。る。あ。る。

一。生。と。通。と。極。業。ひ。る。そ。れ。より。彼。親。り。か。ち。か。行。き。酒。屋。へ。も。ま。り。か。り。と。も。叔。父。毎  
 と。勝。四。五。の。幼。者。を。育。踊。を。教。ふ。善。用。する。と。く。勝。れ。九。の。年。二。代。目。の。中。村  
 傳。九。郎。子。と。成。中。村。中。義。と。成。る。


 此。浪。客。の。身。を。弄。る。母。の。幼。者。を。あ。て  
 あり附傳九郎守と成る。こゝ又中山小市といふ者。ゆり中と長領。おと芝居を執る。  
 え。新。吉。永。若。の。何。素。が。二。男。と。も。右。の。後。家。方。へ。入。夫。と。成。り。唄。よ。合。せ。ま。じ。し。く  
 志。賀。山。権。の。踊。を。教。る。い。つ。の。比。も。市。村。屋。より。中。村。屋。へ。入。替。り。給。合。式。拾。五。と。も。執。る。  
 芝。附。小。市。と。い。ふ。中。村。屋。親。類。あ。る。故。に。合。め。れ。ば。名。改。改。よ。と。て。中。山。小。十。郎。と  
 更。る。叔。父。月。送。る。内。養。父。母。も。こ。の。中。義。中。役。老。の。幼。よ。入。れ。ば。仲。義。と。成。る。

妻と。数十年の修行の因縁と。其の妻もなけれぬ高人か。成さずと。思ひて。ま  
のりしと。又も芝居を勤むるに。子侍の權指南して。夫婦は。世をあらうけた。  
時得て。日く。小評判と。出世狂言の前と。連る。世教。母中村。存命。子。兩り。と。  
相法極。は。耐。と。養父。改名。の小十郎。中。仲。存。改。中山。小十郎。紋。も。也。此  
付。は。道。ふ。い。て。亡。父。へ。孝。養。と。も。手。向。と。も。此。上。や。ま。き。叔。又。自。ら。借。合。年。子。の  
淨。令。之。百。五。余。り。有。り。る。小。借。合。け。人。を。招。寄。け。度。私。親。の。名。改。中。村。出。願。ひ  
ひ。方。の。只。今。ま。七。私。各。面。の。借。合。状。の。名。面。小。借。合。せ。り。と。不。孝。と。も。每。十。の。残。り。と  
の。後。身。中。は。じ。て。の。ま。其。不。少。く。は。用。控。移。入。と。ら。は。せ。く。篤。実。と。ら。る。を。感。  
且。と。年。月。の。淨。利。と。も。め。る。な。れ。ば。仲。也。納。保。の。上。は。令。法。名。は。傳。の。書。有。り。  
牛。と。れ。の。佛。子。へ。使。て。か。は。体。大。令。を。取。役。者。と。ら。る。も。傳。は。正。養。育。の。法。親。と。  
派。ら。ら。れ。津。世。と。を。子。子。中。村。は。存。活。り。た。世。以。來。う。實。の。親。け。と。人。  
と。仲。存。活。川。六。郎。海。の。住。居。の。耐。い。と。又。め。り。傳。ひ。子。と。も。連。活。川。中。の。寺院。

之縁の石燈を。乃。杯。れ。れ。も。知。れ。と。い。ひ。が。幼。年。の。耐。保。も。い。ひ。ま。る。や。毎。月  
八。日。不。と。解。或。の。園。子。と。移。入。修。行。若。師。の。傍。に。接。待。を。出。る。生。得。正。法。なる。の。  
ま。れ。い。以。來。狂。言。と。ら。る。も。區。故。又。け。度。も。慢。心。の。修。り。に。改。名。せ。と。法。有。り。と。  
海。右。の。改。名。と。れ。一。年。此。名。を。付。て。え。の。名。と。る。奇。持。と。る。志。由。と。愛。上。記。を。  
桐。屋。六。四。方。の。狂。歌。連。より。因。十。年。入。幕。一。張。を。い。と。元。中。有。る。形。也。世。男。山。源。氏。藤。原。の  
仲。元。二。叔。箕。田。の。源。吾。度。細。園。十。郎。暫。之。請。は。光。山。の。院。守。一。の。白。子。女。更。り。た。は。み。松。助。  
揚。名。之。助。在。同。年。五。郎。官。女。室。障。の。内。侍。と。依。理。之。の。息。女。務。音。娘。弟。と。安。平。井。の。保。昌。  
門。之。助。光。山。の。娘。と。山。下。万。葉。仲。光。が。妻。と。せ。り。と。安。平。海。邊。の。細。中。村。十。郎。妹。難。富。之。郎。  
源。の。頼。光。尾。上。教。之。前。坂。東。之。津。五。郎。忠。文。が。子。生。生。海。邊。忠。之。源。和。を。ト。記。の。季。武。と。也。此  
山。崎。と。名。と。也。燈。童。九。金。前。門。之。助。柴。刈。と。名。と。更。り。と。柄。山。の。山。神。の。化。現。園。子。前。なり。  
淨。より。四。天王。大江。山。入。常。盤。付。之。系。を。連。中。二。と。い。め。り。相。助。の。似。も。大。玉。元。大。南。之。本。提。町  
在。藤。田。府。の。教。之。母。休。まり。天明。六。年。年。春。二。町。子。ち。友。芝。居。と。も。又。お。燒。當。法。中。村。存。活。也。

芝居年代記 卷之六 四十三





初長  
奴丹  
前

中村七郎

若幸美  
中村信九郎

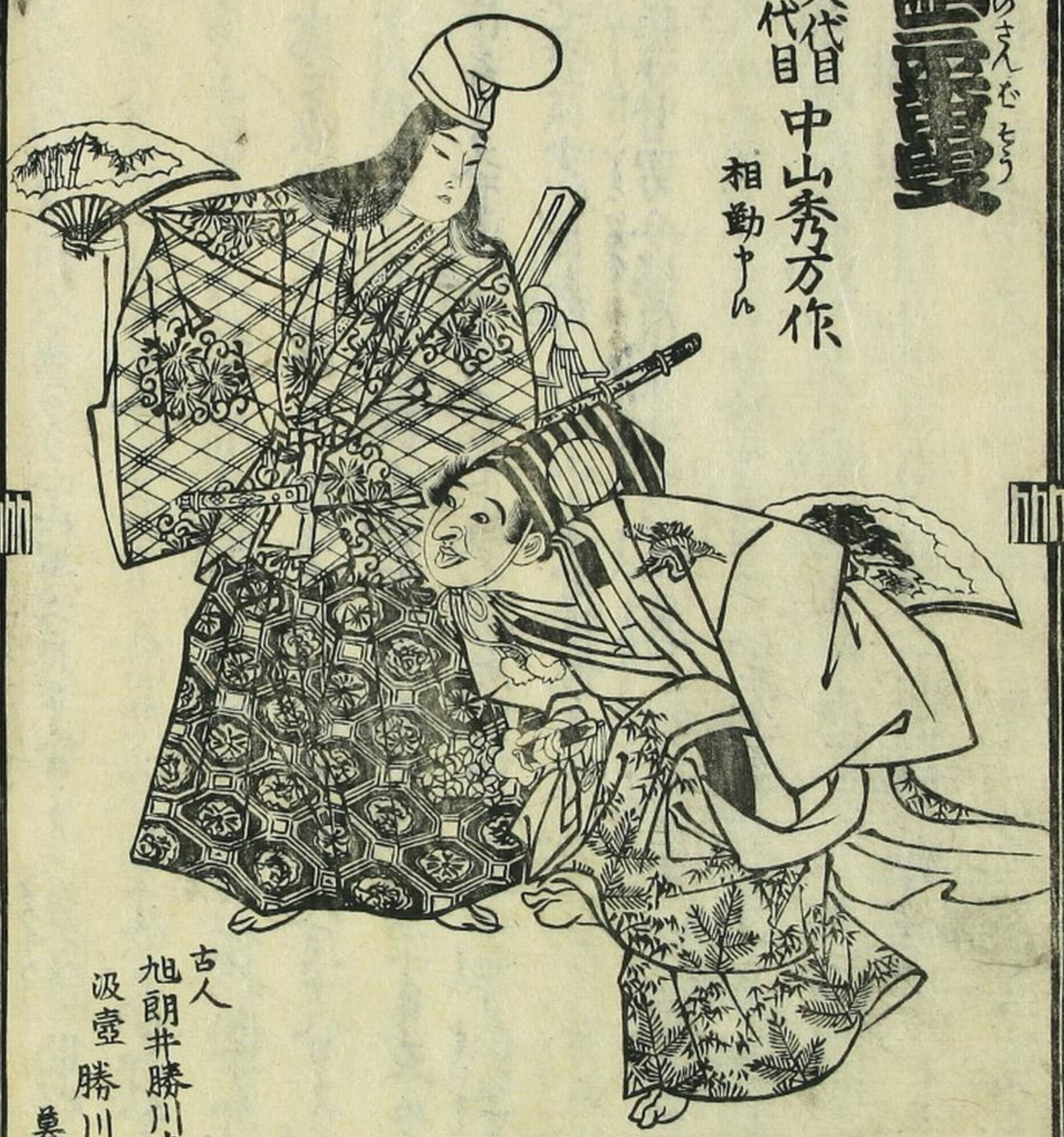
志賀山八代目  
中山六代目

四十五

毒妻圖寶

ことぶきありぎのさんむらう

志賀山八代目 中山秀方作  
中山六代目  
相勤中



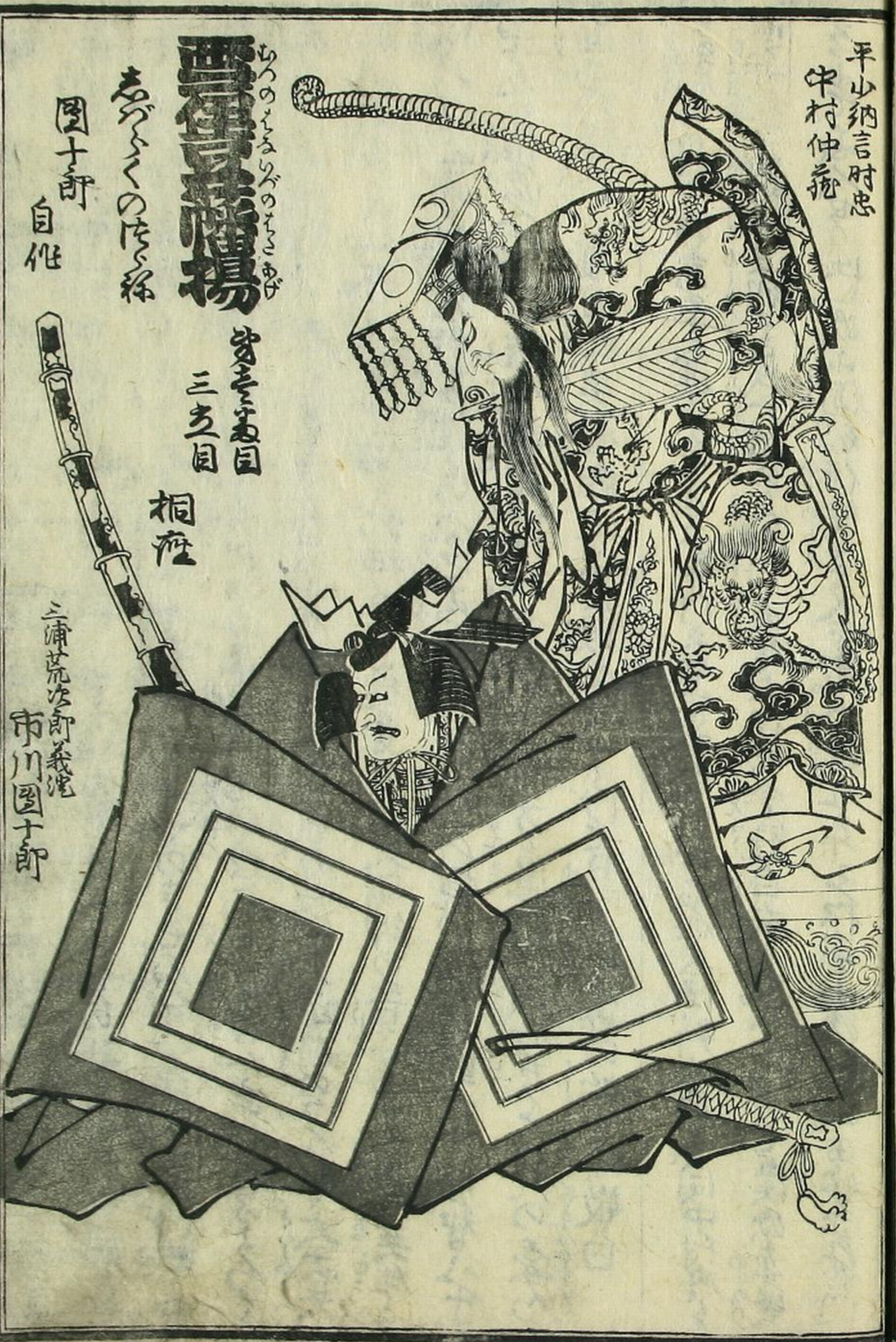
古人  
旭朗井勝川春章画  
汲壺 勝川春亭  
摹寫之

三ノ三作言

四十四

▲そのまゝ人々の癖のあつた。それをまがごらふ其振代してまほるを志賀白痴といふ人の志がから  
 まれんとていふ言のまもれぬ。かゝる名内とてや正徳の流人を通ふこと。士農工商は  
 も其正徳のれが。出家の教誨をくも。正徳をくも。と秀秀語りける。相対見世  
 雪伊豆情揚 平時忠仲秀 恭の始にけ 髪束 唐冠をて 暫のうけ 浦の荒次郎とて  
 園十郎 嘗あり。つゝね 記と。此所小十郎をえの 仲秀か。大坂表へ 浦の荒次郎とて  
 影を世むり 出勅 後寛 流物か。つゝ有。妻とめば 妻。小がうの 局 津川 園十郎とて  
 飛王の 飛王。伊豆 飛王。有王丸は 飛王。津山の 飛王。十花。か。あらの 兵  
 園十郎と。伊豆も 大南の。け 園十郎 白井 飛王。とて 奥へ入。其 首 次 切。て 上 下 荒  
 守るる 形。よ。山 條 財政の 早 移。りの 出。け 所。の 狂。あ。か  
 二階と。か。女中を 掃。と。生死 流。轉。の。子。勢。り。して。 先。及。の。は。は。は。は  
 け。と。流。か。か。の。二。階。へ。女。中。と。あ。び。る。事。を。掃。と。ど。も。付。と。て。上。る。こ。の。め。り。又。は。基。礎  
 と。遠。ひ。纏。ま。す。の。ん。若。い。た。ま。な。も。有。て。を。速。し。回。二。目。目。淨。り。 祝。月。閨。帯。解

平山納言時忠 中村仲秀



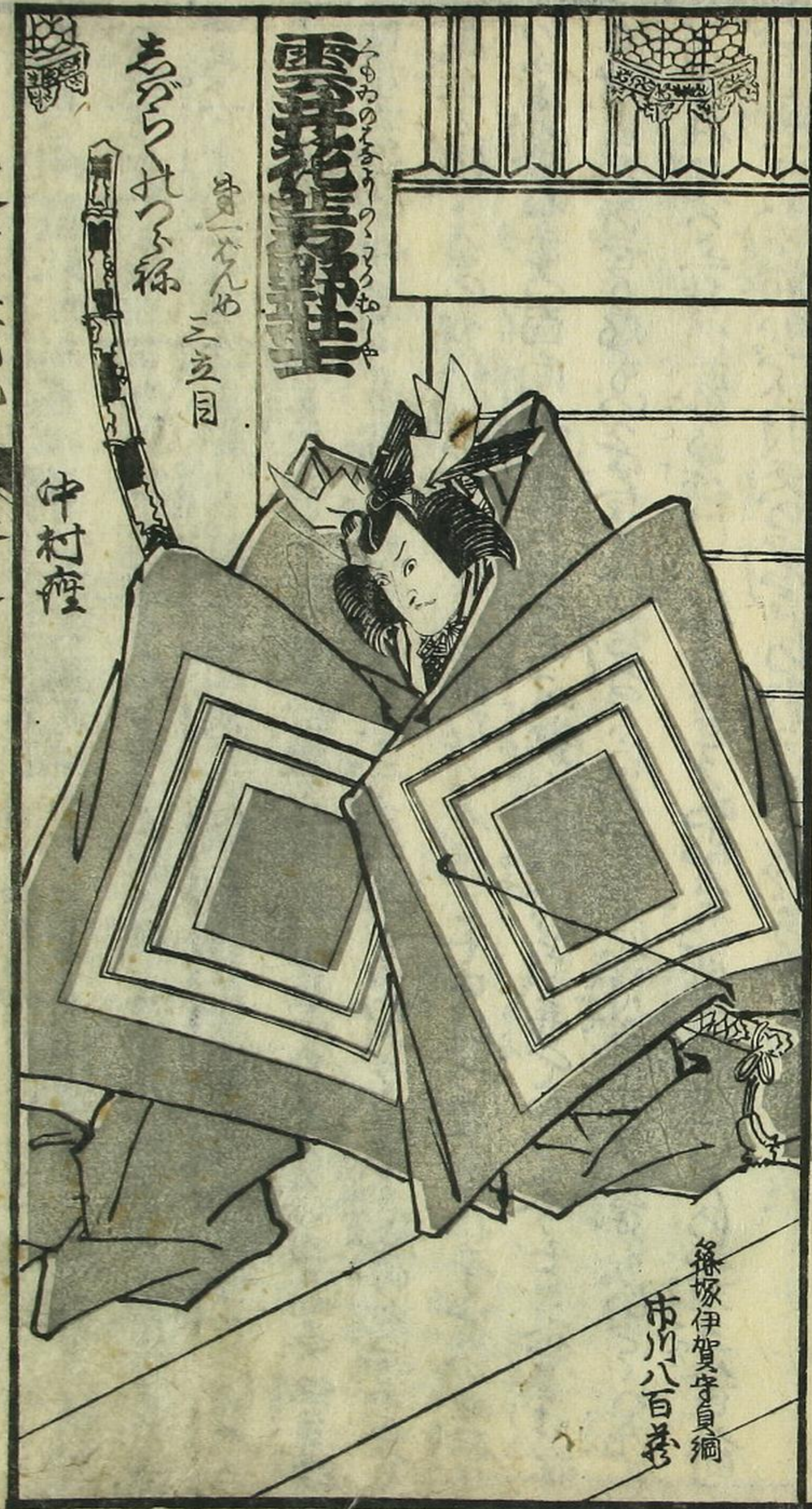
雪伊豆情揚 三之目 相座  
 園十郎 自他  
 浦荒次郎義徳 市川園十郎



東岸西岸の柳の遅速同くは南枝北枝の梅の潤落既も異なり。雨露霜雪の恵  
 亦周く宇宙山林の潤せり。山林を飛行せし神夢自在の天魔の親方敵役の物奉  
 寺へ銭列の事も暫と一声をけて又今年も素絶鳥帽子のまを始まんとするま久のわや  
 ころはせぬる古ねを以て新なる合致も五年振念の入こお尋か名をめてせざるよんく  
 聞事も大蛇をけり殺した素盡鳥さる。八百代の後胤力痛の入道前のころく大丈夫  
 鐘旭大臣との行合はすけらら此神のまを徒牙戸隠大明神の告すめて當村英雄と  
 いれる。浦の落彦町後流といの色を流惚とらびるびる高野六十那智半  
 四十九の信彦の嫁入の後合滅陰陽和合樂秀路万亀萬を歳江戸をえねのあやの  
 面ののせ天竺震且蝦夷韃靼とて世界をわらうけて日本教と世の始とあ敬白

つし條の 常程はは常をま連中とては立布。門之助は四郎。この正徳大澤判大南り。同中村府  
 常程はは常をま連中とては立布。門之助は四郎。この正徳大澤判大南り。同中村府  
**野井吉野莊** 且利も氏大塔のまの亡尾上松助合冠白衣少て大森秀七彦彦赤松  
 ちよとて。友人甘り出。次小瀬初伊賀も又を郎。高九郎本山次郎。須田次平は備門

中流も備門氏家中勢を主國市川後登。け四人西東と方より赤ぬり。芝對の上下衣袋  
 少て出暫の信。篠塚信也も貞綱とて市川八百巻。あはゆ左馬の女房白妙も世へ



芝居年表  
 中村登

篠塚伊賀守貞綱  
 市川八百巻

東夷南蛮北狄西戎四異八荒天地乾坤のその間武伎逞き市川の清き流れを  
 受養て我めて名苗字之代の将をあらわし二弁の紋有き人の誓をいやま須弥の  
 四天王の多門持國護長度目頼光の四天王の綱金肘負光香中武南附和歌に四天王  
 とは阿茶運淨弁兼好この官軍は惣大将新田左中將負光四天王の細直理  
 栗生藤塚伊賀守定綱足利家ゆめ今も四天王のおうがせ幸願の色西めて  
 尾上と位よるのむねを奪る友鳥鶴を物こそ中略の思を松本山次討つ壁  
 りふ及びる赤の面おもむく東一又敷たんとし弁とおして今も入る松尾  
 とおまをのむねを奪る友鳥鶴を物こそ中略の思を松本山次討つ壁  
 の事任足つ弁の落つ中任ははるもまもるもあつた丸を度治む江戸の取ま八百公  
 八百一けぬを戦かぐ月天の老后の教を世とせらまるとせらる。

補常力二行字十平八百を孤めて二人捕大てん枚奉仕信坊と実の公綱お  
 松助舟の内侍信田の小笠原頼朝下り嵐村次郎四人者二と目西能はとも大塚利大角。

浄福理 河内塚本 袖振雪吉野拾遺 富本安まま相勤。森田府 女武者菊太郎 巴山前  
 和泉信田 和泉信田 和泉信田 和泉信田 和泉信田 和泉信田 和泉信田 和泉信田 和泉信田 和泉信田  
 と天明國名の王の姫実の阿波の侍従小笠原信綱間の中ねとて家のを年光盛



女武者菊太郎 巴山前  
 浄福理 和泉信田 袖振雪吉野拾遺 富本安まま相勤。森田府 女武者菊太郎 巴山前  
 天明國名の王の姫実の阿波の侍従小笠原信綱間の中ねとて家のを年光盛

○ 志づらくのほろほ

瀬川菊之丞自作

傳聞范蠡の責をぬて扁舟に掉せし謝安の功を辞して孤雲を頼る功成名遂  
 てて目録もいし御書負の海に思ひのく瀬川流結せぬ法和木曾左馬の源の  
 後仲の山内おはして巴とく伝馬のめんと世の字おにらして打て木槌町の  
 志づらく願ひの森田今そ秘軒基かちち字と書事は四角の角ぐ成梅の  
 素絶もかひその掛も袖のぬいと思ひいらくは縁後を一寸教書に志づらせ  
 假名の二文字邪見の角文字折まひてくはかたしといひ書るあかど書ぞく  
 書も短くといしやまきとく二筆正のゆ其息の松を封み令けし草たぐ  
 志づ世の馳をもの跡らぬをさるる探遠一往目の放れぬる内巻初め念じ  
 ありち折角はめりの御書おのちとはるるなは長あかたははるるおひみ  
 されどまよの事まじはらんとかごとく縁も取まらぬとぬの渡村を幾代  
 系末もふみくれば縁ぐしやわらせむがじかかへるるらやまらてまらぬ。

又そのふ ぬ近二叔なり。桶にの渡年義光助女即本を義仲のへり 中行吉右衛門のあひいせん  
 下り尾上久平助権の頭義光を山科四郎十兵衛新左衛門の参入行家下り嵐おきと。後夜君  
 國武二代目と津五年二の月志の赤村のお廣実の舟友吾妹山崎義光之忠。百姓福作  
 守のいおを君と津五年と石田の三郎為久於存。難兵の形おて早行のまら天孫判  
 前浄福理を我ままら戦場の平。兒おて飯を焚くもの。ぬ海。義光之忠。於此こくおて  
 龍頭嫩源氏豊竹頼俊をまら強野に在る相勤。後 浄福理 雪容形麻衣富本  
 豊前大夫三弦名見崎徳次お師。け顔見世木村田屋役者不くうり。大孫判大角  
 知くお路考の手拙といふ今年霜月初見毎役者附より。富本豊をまら丸の紋を  
 ぬ此改る。世の人まら草と称す。

歌舞妓年代記卷之六畢

